

野津田公園旧バラ広場へのテニスコート建設予算の執行延期を求める請願

野津田公園旧バラ広場へのテニスコート建設予算の執行を延期するよう求めます

町田市が2014年以後進めている「野津田公園第二次整備基本計画」に基づく市の説明によると、バラ広場に隣接する栗畑、養鶏場、蔬菜畑などの農地等を買収した後に、大会規模の12面のテニスコートが建設されることになっています。

計画ではその内の4面について、2021年4月より、現在斜面である広場に大量の土砂を盛土して、平地を造成する大規模工事が予定されています。周辺には落葉高木なども多く競技の障害となるため、伐採など大きな変更も予定されています。

同時に、2月現在、町田市では所謂新型コロナ肺炎(COVID19)の感染者が毎日発生しています。こうした現状において、不要不急と考えられる施設建設に使う出費は、できる限り必要最小限に抑えるべきだと考えます。

町田市の石阪市長は新年度「予算編成方針」(2020年9月1日)の中で、ここ数年間、町田市の財政が「極めて深刻な状況を迎える」と警告し、「事業の廃止、縮小など事務事業の抜本的な見直しを行う」と述べておられます。

そうした中、昨年12月議会建設常任委員会では、請願審議を通じて、野津田公園におけるテニスコート12面の建設計画の達成は困難では、と指摘されました。この計画地内の農地を所有する農家は、後継者もあり、市主催の「競技場増設工事説明会」の場で営農継続の意思表示をされる等、営農意思が固い方々です。これまで、市内外の多くの消費者に卵や野菜、果物の糧を与え農業を続けてこられました。これら農家の方々に移転を交渉するとしても、営農条件に見合う代替地も無いため、市による用地買収の目途は全く立たない状態にあります。

また、町田市は「(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン策定に関する特別委員会」でも、市内の農業を守る施策を打ちだしています。その町田市が、建設工事で農家の稼業に支障をきたすような事は、決して在ってはなりません。市は農家の意思を尊重すべきだと考えます。

その上で、同公園でテニスコート建設を進めるならば、現中央駐車場エリアの現行3面のテニスコートの周辺の平らな駐車場区域など、大規模変更の必要が無いような適切な場所を再検討すべきと考えます。第2次基本計画策定に当たり、テニス協会からは、現有3面の周辺に5面以上の建設を、という要望が出されています。仮に「ばら広場」跡地に4面のテニスコートを作った場合、試合等で使うには現有3面との間を移動する必要があります。市は現有3面のコート廃止する旨表明していますが、12面建設が困難である以上、むしろ現有を活かし、それに隣接した新設コート建設案が妥当ではないでしょうか。

また、町田市は「ばら広場移転」と「テニスコート建設」の事業に関する説明会を行っていません。十分な感染症対策を施して、説明会を実施すべきと考えます。

このような理由から、野津田公園におけるテニスコート建設関連予算について、次のように要望します。

- 一、旧ばら広場へのテニスコート4面の建設事業に関する予算執行を延期して下さい。
- 二、野津田公園の現有3面のテニスコート周辺におけるコート建設案を検討して下さい。
- 三、野津田公園におけるテニスコート建設計画について市民向けの説明会を開いて下さい。